



GRL NEWS

Gender Research Library
Nagoya University

名古屋大学
ジェンダー・リサーチ・ライブラリ

No.11

2023年7月発行

ハーバード大学シュレジンガー図書館長 Jane Kamensky氏来館

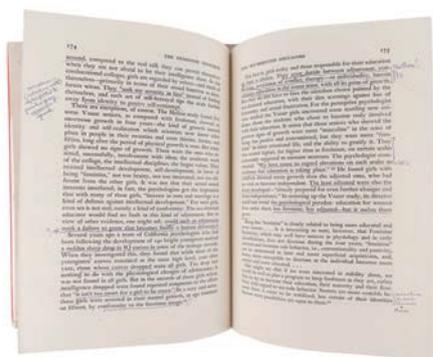
(東海ジェンダー研究所理事)
武田貴子

2023年6月6日(火)日米友好基金により来日中であったカメンスキー先生が多忙な日本滞在中にもかかわらず、GRLを訪問、スペシャルトークをして下さった。GRL創立時に開館記念講演をお願いした元シュレジンガー図書館長Nancy Cott先生が現館長カメンスキー先生を紹介して下さいたご縁で、カメンスキー先生にはGRL5周年のお祝いの言葉(GRL Studies 第5号に掲載)を寄稿していただくなど、シュレジンガー図書館とGRLとの友好な関係が築かれつつある。

スペシャルトークの題は「アメリカ女性の歴史について、シュレジンガー図書館の視点から」であった。80年に及ぶシュレジンガー図書館のコレクションに沿って、1940年代からの女性史が次のような5つのセクションに分けられ語られた。1) Rights: シュレジンガー図書館の起源ともなった女性参政権運動についてのコレクションや、1960年代『女らしさの神話』を書いたベティ・フリーダンの現在のアンジェラ・デイビスのコレクションなど女性の権利を求める人物や運動の資料は無論のこと、女性参政権に反対する女性の資料も含まれている。図書館の在り方として、一方的な側面だけでなく、色々な側面からの資料もコレクションされるべきとのことだった。2) Families: セクション1と違って、無名の人々の生活に関わる、料理本、育児、高齢者のケア、医療資料を含むさまざまな資料が収集されている。これらの一般的な史料も貴重な研究対象である。例えば、大量のベビーブックからは、当時の理想的な母親像が浮かび上がるし、正装して授乳する写真から、時代によって授乳に対するプライベートな認識の変化を読み取ることもできるとの指摘があった。3) Body Politics and Family Values: 19世紀半ばの避妊具のスライドから始まって、女性が自分自身の身体をコントロールすることが政治的な意味を持ち、かつ人種問題と交差することが示唆された。4) Remaking the Globe: 時間の都合で多くは割愛されたが、アンジェラ・デイビスの例をあげて、コレクションがアメリカだけにとどまらない現状を提示した。5) Futures: #MeTooのデジタル史料をコレクションしており、コレクションのポリシーは現在進行形で検討されている。また、これまでの資料のデジタル化も進めているとのことだった。

個人的に驚いたのは、20世紀初頭の女性参政権運動家アリス・ポールのコメントが書き込まれたベティ・フリーダンの『女らしさの神話』(1963年)のスライドを見た時である(左下の写真)。「え、そんなものが存在するの?」がそのときのわたしの心の声である。あとで調べてみると、アリス・ポールがそのコメントを入れたのは、79歳の時だと分かって衝撃的だった。シュレジンガー図書館のコレクションの質の高さを感じた瞬間である。

カメンスキー先生は、5歳のGRLに対して80歳のシュレジンガー図書館がBig Sisterとして今回共有できることがあるのではと、前置きされてスペシャルトークを始められた。5歳のまだよちよち歩きのGRLに、なんと頼もしいBig Sisterであろうか。カメンスキー先生の今回の訪問は、間違いなくシュレジンガー図書館とGRLの関係をより強く深めるものになった。講演後、彼女から、とても丁寧な礼状が届き、両図書館の協同関係 Sisterhoodの構築を提案して頂いた。これからが楽しみである。



ジェンダーダイバーシティセンター 新センター長挨拶

(男女共同参画・多様性担当副総長補佐、工学研究科教授)

鳴瀧彩絵

2023年4月より、ジェンダーダイバーシティセンターのセンター長を拝命いたしました工学研究科の鳴瀧と申します。私は2014年に、0歳と2歳の子供を連れ、単身赴任で工学研究科の准教授として着任しました。名古屋大学が全国に先駆けて設置した保育園、継続して採択されている文科省女性研究者研究活動支援事業による各種支援(研究費支援、RA雇用支援、英文校閲費用補助等)をフル活用し、また、教員による自発的組織「名古屋大学子育て単身赴任教員ネットワーク」の仲間と助け合いながら研究を継続し、

2020年に工学研究科教授を拝命しました。この間、男女共同参画室(2017年より男女共同参画センターへ改組、2022年にジェンダーダイバーシティセンターへ改称)の皆様からは、顔の見える支援と励ましをいただき、どれだけ勇気づけられたかわかりません。2021年からは副センター長を務め、担当副総長の東村先生が強い意志を持って本学の男女共同参画に取り組み全国へ波及させてきたこと、センター教員と事務の方々日々汗を流していること、多様性推進の取組を社会から応援していただいていることを目の当たり

にしました。センター長としては、皆様への感謝の気持ちを忘れず、本センターならびにジェンダー・リサーチ・ライブラリの存在感を高め、全学、全国へ波及する取組を進めていくこと、そして特に工学研究科の男女共同参画の推進に、使命感を持って務めていきたいと考えております。



新企画・GRLブックトークの趣旨について

(名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ司書)

坂川万理子

GRLブックトークは、学内の学部生・院生・ジェンダーに関心のある一般利用者にもっと身近にGRLを知ってもらい、利用してもらうために2023年1月よりスタートしました。

ジェンダーの視点を日常生活や研究・学習に取り入れることは当たり前になってきている現代社会において、GRLを活用してほしい、ライブラリの本をもっと読んでほしいという思いを込めてGRL司書と当ライブラリを支える大学院生サポートスタッフで毎月1回開催しております。

本の紹介者の院生スタッフはそれぞれライブラリの本の中で興味のあるテーマ

の本をセレクトし、話をしてくれています。これまでは『書物の破壊の世界史:シュメールの粘土板からデジタル時代まで』『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション-人種、ジェンダー、性的指向:マイノリティに向けられる無意識の差別』『〈体育会系女子〉のポリティクス:身体・ジェンダー・セクシュアリティ』『彼女たちの文学:語りにくさと読まれること』『恋をする、とはどういうことか?』『職業婦人の歴史社会学』等を紹介しましたが、学生や一般の方たちにも分かりやすく、また研究者の方にも新しい発見がある内容で、次回開催を楽しみにしてくれている利用者も

増えつつあります。

ライブラリ内にミニ会場をセッティングし、アットホームな雰囲気です。ぜひ一度ご参加ください。

このブックトークが魅力的な本との出会い、新たな自分発見、新しい仲間との交流等に繋がるようにこれからも開催していきたいと思



「女性文学」とは何か —GRL第四回ブックトークについて

(名古屋大学人文学研究科博士後期課程)

胡勝

2023年2月24日、GRLにて第4回のブックトークを行った。ブックトークは、院生スタッフが定期的に制作し、館内掲示している「図書紹介ポスター」の拡大版であり、利用者が読んでみたい本と出会うきっかけになる場である。

今回紹介したのは、名古屋大学教授・飯田祐子氏の著書、『彼女たちの文学:語りにくさと読まれること』である。最初に私から「女性作家という言葉が耳にする時、どのようなイメージを抱くのか」と問いつつ、参加者からは、「感情的」とか「恋愛の物語が多い」など声があがった。その

背後には「女性はセンシティブであるから、感情的でいたいことない作品を書いた」という社会通念があるかもしれない。

しかし、本書ではこうした本質主義的な論説がなく、細かな分析を通して「女性作家」というジャンルを説明している。男性作家より厳しく求められる規範による読み手に配慮しなければならない「語りにくさ」と、読まれることに対する高い「感応性」が必要であったこと。この「語りにくさ」と「読まれること」は、女性文学の特徴が生み出されてきた。こうした女性作家の共通する経験を基に、書き手と読み

手の関係に焦点を当てて論じることが、本書の特徴である。ブックトークではまた、本書であげられた「満人譚」(満州国に関する物語)を例に、女性作家に特有のジェンダーによる公私の領域分割に敏感な視線を紹介した。

今回のブックトークは空席がないほど、参加者が多かった。紹介が終わった後、来場の皆さんから貴重なコメントや感想を伺った。発表者としてもたいへん勉強になった。今後も院生スタッフの皆さんと面白い本を紹介していくので、ぜひGRLにお越しください!

お知らせ 【ブックセミナー予告】

GRLでは2023年度に新しい企画として、ブックセミナーを3回行う予定です(秋以降、順次開催)。詳細が決まりましたらホームページ、Instagram、Twitterでご案内します。

2023年9月22日(金) 17~19時開催予定

・『ジェンダー研究が拓く知の地平』東海ジェンダー研究所記念論集編集委員会編(明石書店、2022年)

本書は、急速な拡大、進展を遂げるジェンダー研究によって拓かれた、知の地平を提示する。第一部ではジェンダー概念そのものを、それが帯びる多様性・多元性から捉え直し、第二部では変容を迫られている市場労働、ケア労働の考察を通じ、新たな社会像を展望する。



2023年10月頃開催予定

・『未来から来たフェミニスト 北村兼子と山川菊栄』(花束書房、2023年)

日本の女性で初めて法律の世界に飛び込み、世界を舞台にジャーナリストとして短い生涯を駆けた北村兼子。同じく、世界の潮流をとらえながら社会を分析し、平等をもとめ続けた山川菊栄。現代のフェミニストたちが、ふたりをめぐるエッセイや論考を綴り、語り合う。



2023年11月3日(金) 14~17時開催予定

・『プロレタリア文学とジェンダー—階級・ナラティブ・インターセクショナリティ』飯田祐子・中谷いずみ・笹尾佳代編著(青弓社、2022年)

階級闘争が内包してきたジェンダー構造に着目し、小林多喜二や徳永直、葉山嘉樹、佐多稲子らの作品から、プロレタリア文学の実践を読み直す。民族やコロニアリズムなどの論点と階級闘争との交差にも着目して、プロレタリア文学の可能性と問題点を析出する。



ご寄附のお願い

GRLは、ジェンダーに関する研究、教育、研究者の育成、ならびに男女平等意識の啓発、普及に向けて、フェミニズム、ジェンダー研究に関わる図書、雑誌、リーフレットやパンフレットなど、多様な文献、史・資料を蒐集・保存するとともに、研究者はじめ学生、市民など多くの方々に利用いただくことで、ジェンダー研究を実践的に発展させていくことをめざしています。

GRLのようなジェンダーをテーマとした研究活動施設は全国的にも珍しく、その個性的でユニークなありかたは、21世紀の知のパラダイム・チェンジに貢献しうる大きな可能性を有しています。GRLがジェンダー研究を深化させ、その成果を社会に還元できる知の拠点へと成長していくためには、文献、史資料を散逸させることなく、蒐集、保存、整理し、広く提供できるライブラリ、アーカイブの存在が不可欠です。

GRLが、先人たちの知の営みを次代に継承していけるよう、みなさまのご支援を賜りたく、お願い申し上げます。ご寄附金等をいただける場合には、こちらのメール(grl@adm.nagoya-u.ac.jp)までお知らせ下さい。



お問い合わせ: grl@adm.nagoya-u.ac.jp

電話: 052-789-5111 (代表)

アクセス: 〒464-8601 名古屋市中種区不老町

地下鉄名城線「名古屋大学駅」1番出口より徒歩1分